

2017
vol.56
no. 2

写真測量とリモートセンシング

目次

〈巻頭言〉 未来のために過去から学ぶ	古川 顕一	41
〈カメラアイ〉 新潟県糸魚川市の大規模火災	榑原庸貴, 大坪和幸, 望月貫一郎	42
〈研究速報〉 画角の異なる再撮影を補助する携帯端末用アプリケーションの開発	前島 遥, 奈佐原顕郎	44
〈解説〉 先進光学衛星の概要	岡 綾乃, 度會英教, 田殿武雄, 高橋陪夫, 匂坂雅一	49
〈活動報告〉 地球観測衛星30周年記念シンポジウム 報告	五十嵐保, 高橋陪夫	53
〈活動報告〉 第25回 生研フォーラム 開催のお礼	東京大学 生産技術研究所 地球環境工学研究グループ	57
〈文献抄録〉 PRECISION AGRICULTURE TECHNOLOGY FOR CROP FARMING	王 姫	58
〈文献抄録〉 地形の辞典	今村遼平	59
〈文献抄録〉 The new world atlas of artificial night sky brightness	大吉 慶	60
〈会のうごき〉		62
〈投稿要領・執筆要領・原稿送付状〉		64

表紙説明：WorldView-3衛星は、米国DigitalGlobe社によって2014年8月13日に打上げられ、現在運用が続けられています。この衛星には、可視近赤外センサに加えて短波長赤外域SWIRの8バンドセンサが搭載され、リモートセンシング分野での新たな利用が期待されています。表紙は、2015年6月15日に、SWIRで茨城県つくば市付近を観測した画像です。本来の空間分解能は直下で3.7mですが、公開画像は米国政府の規制で7.5mとなっています。SWIR-1 (1195-1225nm)を緑色濃淡、SWIR-8 (2295-2365nm)を赤色濃淡で色合成したものです。SWIR-1は、近赤外との境界帯域で、植生を強く反射し、SWIR-8は土壌を強く反射し、土壌に水分が多いと反射が低下する特性があります。画像内の裸地や畑地は茶色の色調で表現され、場所により微妙に色調が変化しているのが確認されます。また水田地帯は暗い緑で表現され、水田区画内の濃淡の差は、水稻の生育状態の差異を反映していると推測されます。

企画製作：長岡技術科学大学 力丸厚, ©DigitalGlobe/画像提供：日本スペースイメーシング

本学会のホームページを開いたしておりますのでご覧下さい。

<http://www.jsprs.jp>

E-mail: office-jsprs@jsprs.jp

編集委員

委員長	織田和夫 (アジア航測(株))
委員	浅沼市男 (東京情報大学)
	五十嵐保 (リモート・センシング技術センター)
	石塚直樹 (農業環境技術研究所)
	今井靖晃 (国際航業(株))
	木寺幸司 (日本測量協会)
	鈴木英夫 (朝日航空開発(株))
	高橋陪夫 (宇宙航空研究開発機構)
	近津博文 (東京電機大学)
	中村孝之 (国土地理院)
	藤野千和子 (日本写真測量学会)
	布施孝志 (東京海洋大学)
	政春尋志 (東洋大学)
	望月貫一郎 ((株)パラス)
	吉野邦彦 (筑波大学)
	力丸厚 (長岡技術科学大学)